

資 料

～現下の経済状況について～

月例経済報告(抄)

平成 15 年 10 月

総 論

(我が国経済の基調判断)

景気は、持ち直しに向けた動きがみられる。

- ・ 設備投資は増加している。企業収益は改善が続いている。
- ・ 輸出は持ち直し基調にあり、生産は横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は、おおむね横ばいで推移している。
- ・ 雇用情勢は、依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。

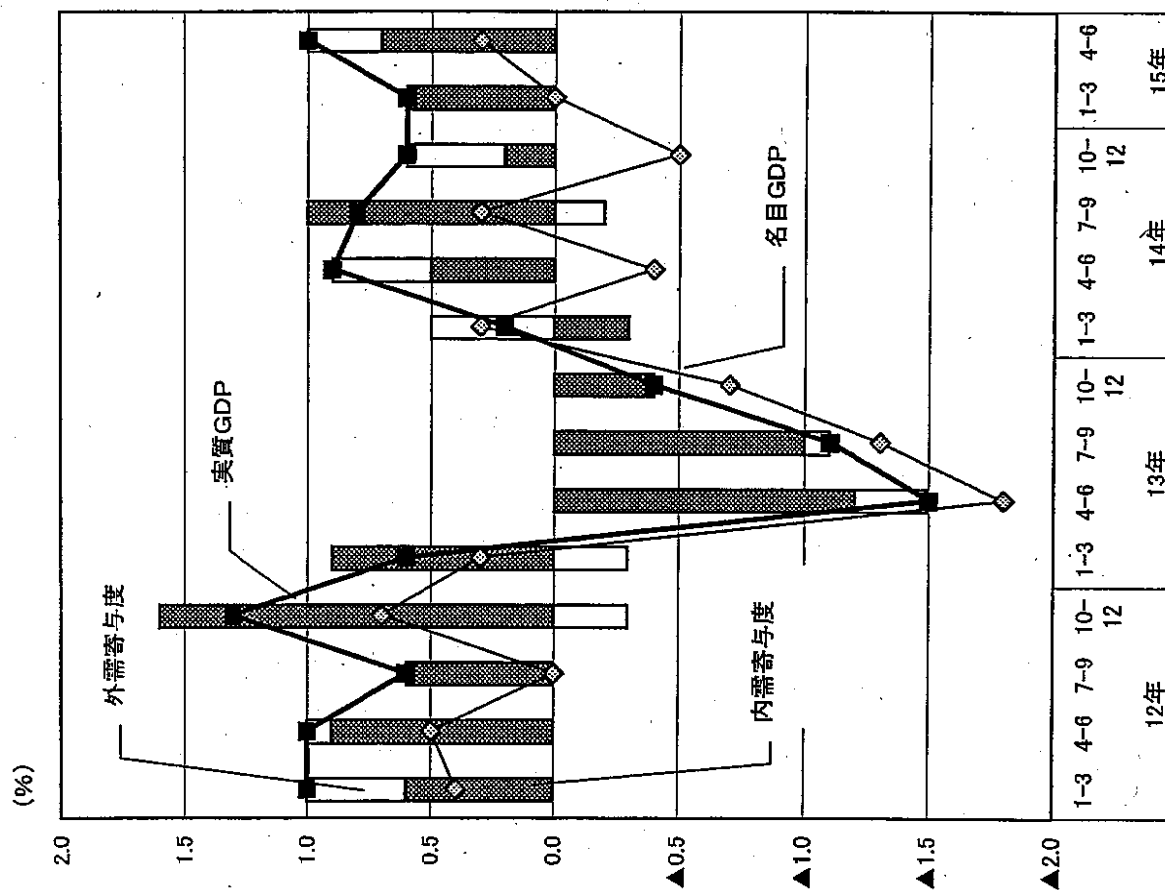
先行きについては、企業部門が持ち直している中で、アメリカ経済等の回復に伴って、景気は持ち直すことが見込まれる。一方、今後の株価・為替レートや海外経済などの動向には留意する必要がある。

(政策の基本的態度)

政府は、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2003」の早期具体化により、構造改革の一層の強化を図る。

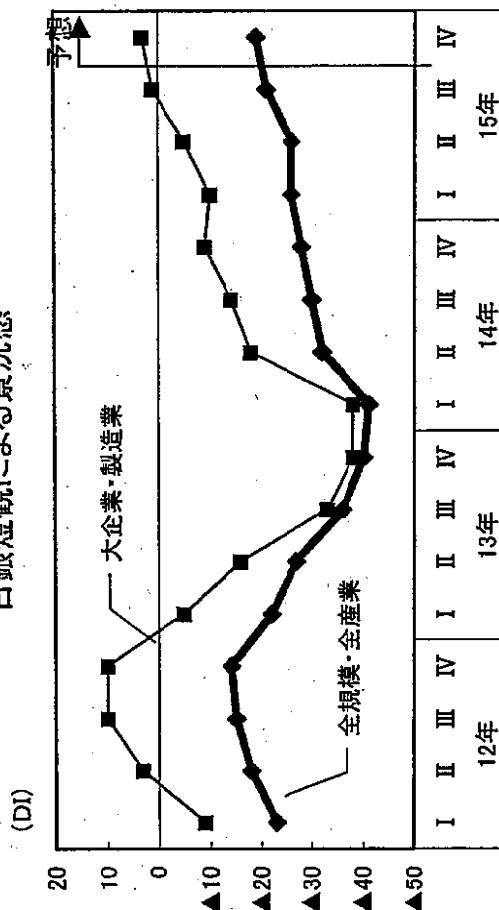
日本銀行においては、金融機関保有株式の買入れ措置を平成 16 年 9 月末まで延長した。また、10 月 10 日、日本銀行当座預金残高の目標値の上限を引き上げ、27～32 兆円程度とすること等を決定した。政府は、日本銀行と一体となって、金融・資本市場の安定及びデフレ克服を目指し、引き続き強力かつ総合的な取組を行う。

実質・名目GDPの推移



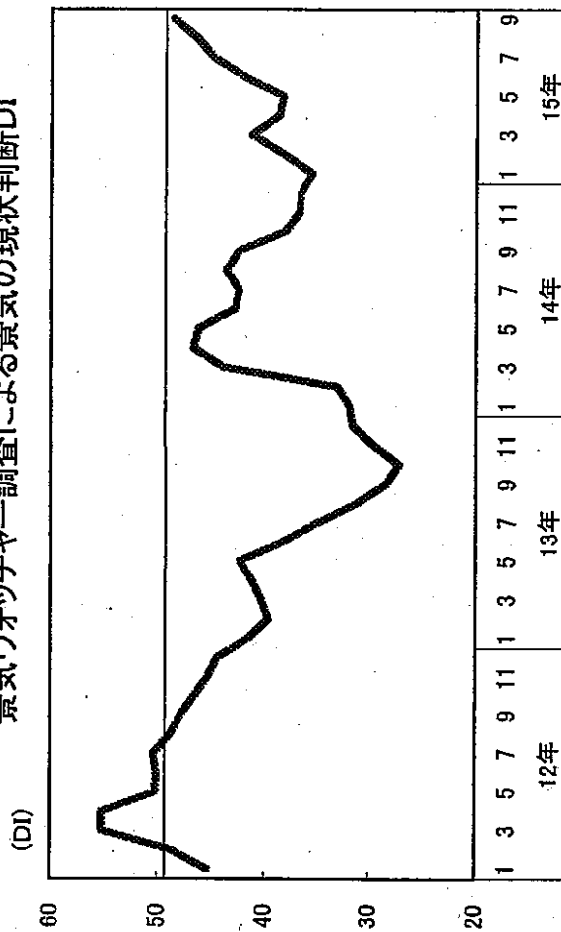
* 四半期別GDP速報(内閣府)による。なお、GDPは季節調整済み前期比の伸率であり、寄与度は実質である。

日銀短観による景況感



*「日銀短観(日本銀行)による。なお、DIは「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いたものである。

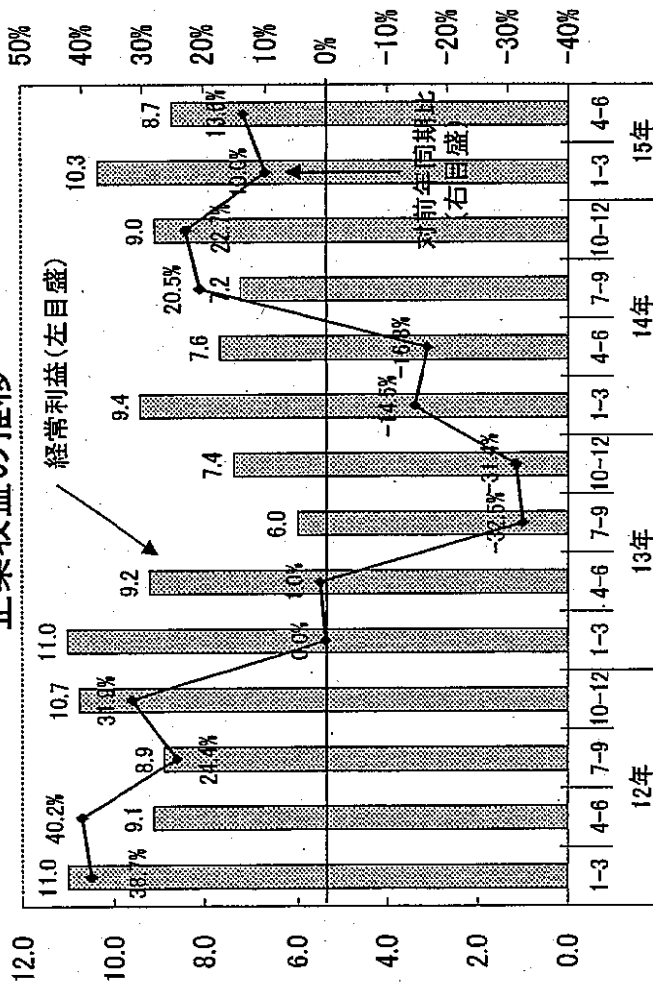
景気ウォッチャー調査による景気の現状判断DI



*「景気ウォッチャー調査」(内閣府)による。なおDIは、景気ウォッチャーによる3か月前と比較して

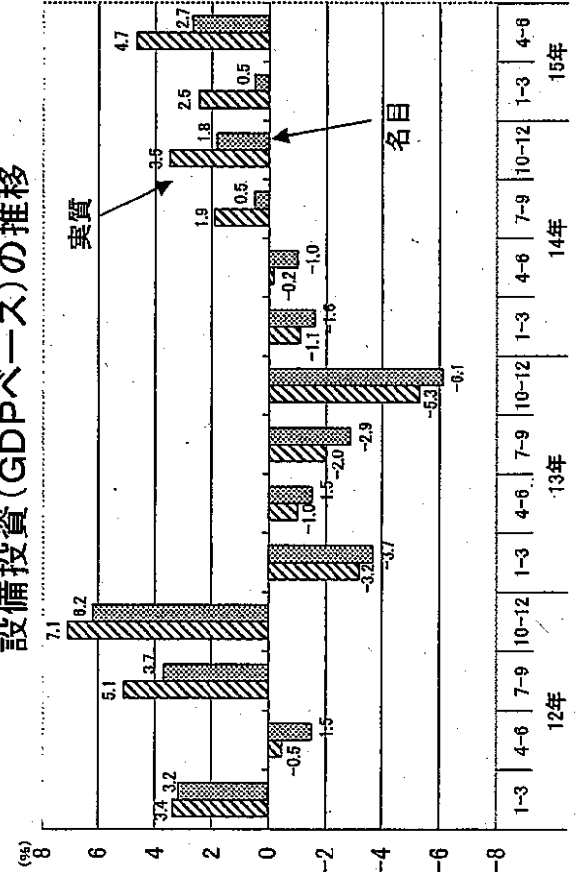
(兆円)

企業収益の推移



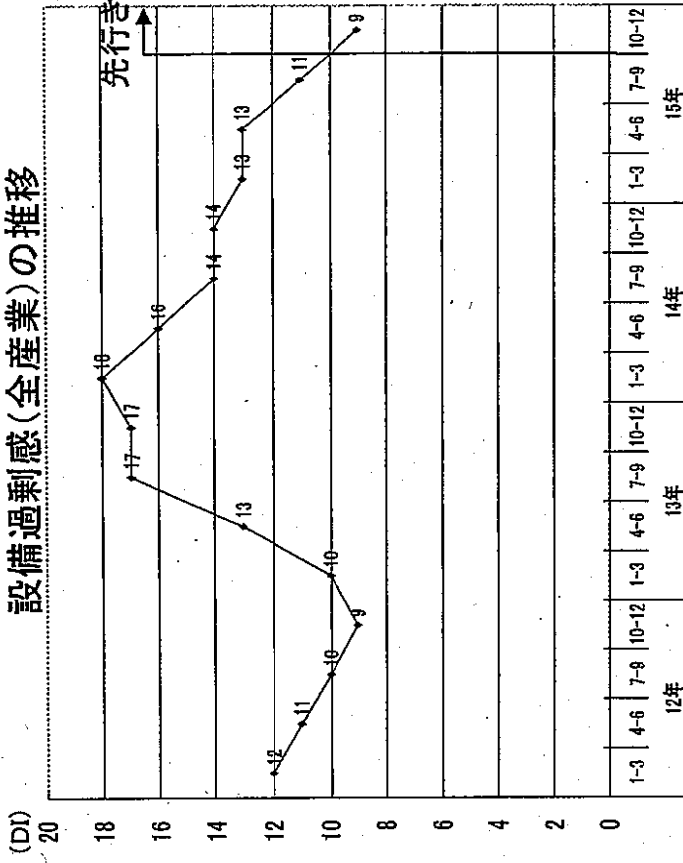
*「法人企業統計」(財務省)による。

設備投資(GDPベース)の推移



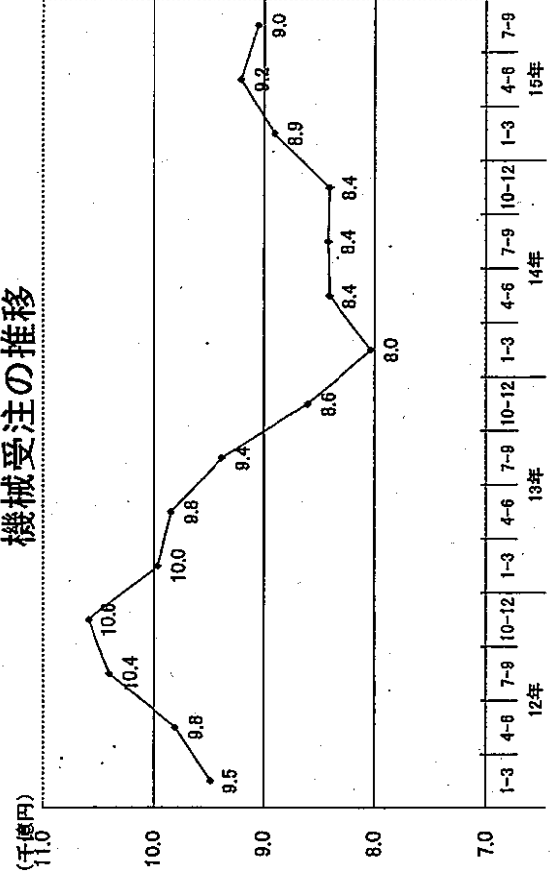
*「四半期GDP速報(QE)」(内閣府)による。

設備過剰感(全産業)の推移



*「日銀短観」(日本銀行)による。なお、DIは「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いたものである。

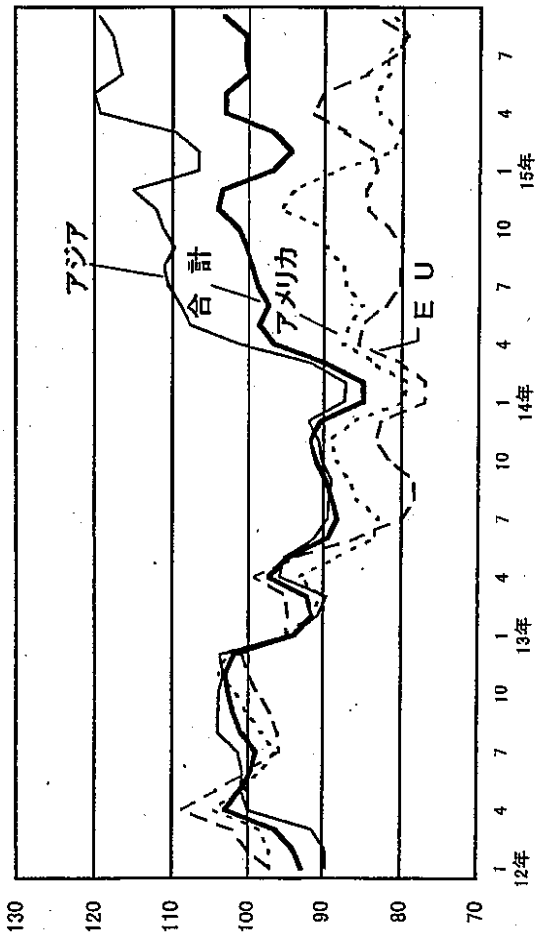
機械受注の推移



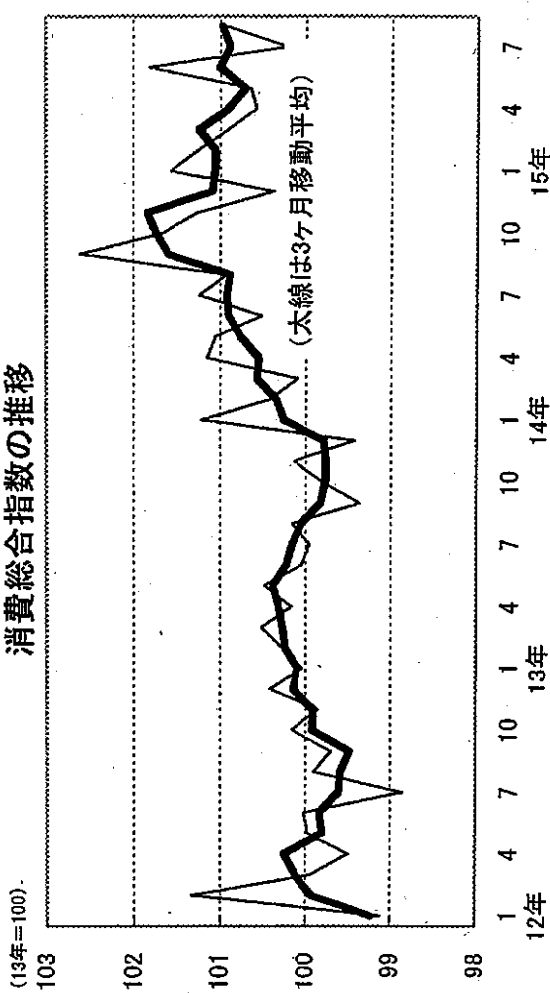
*「機械受注統計」(内閣府)による。数値は、民需(船舶・電力を除く)。なお、15年7-9月は7月と8月の平均値。

指数(平成12年中平均=100)

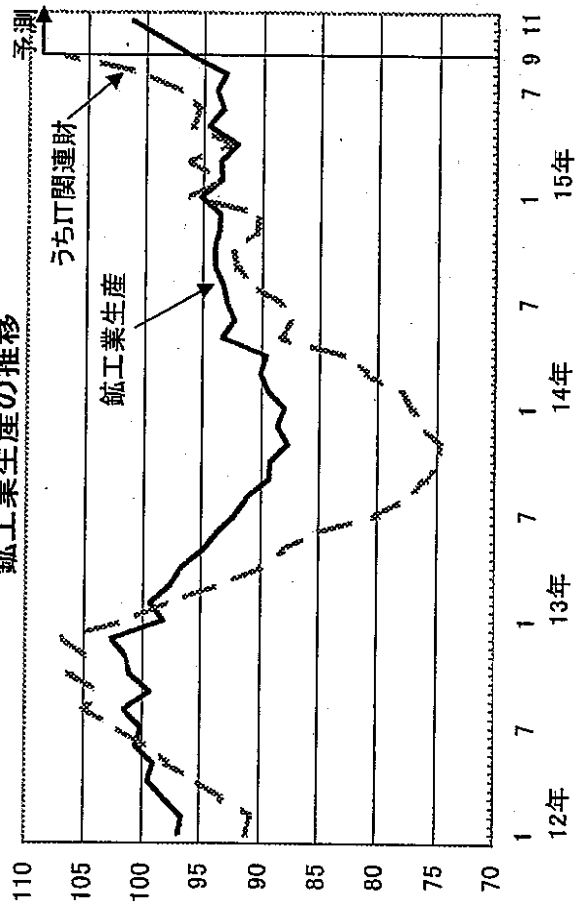
輸出数量指数の推移



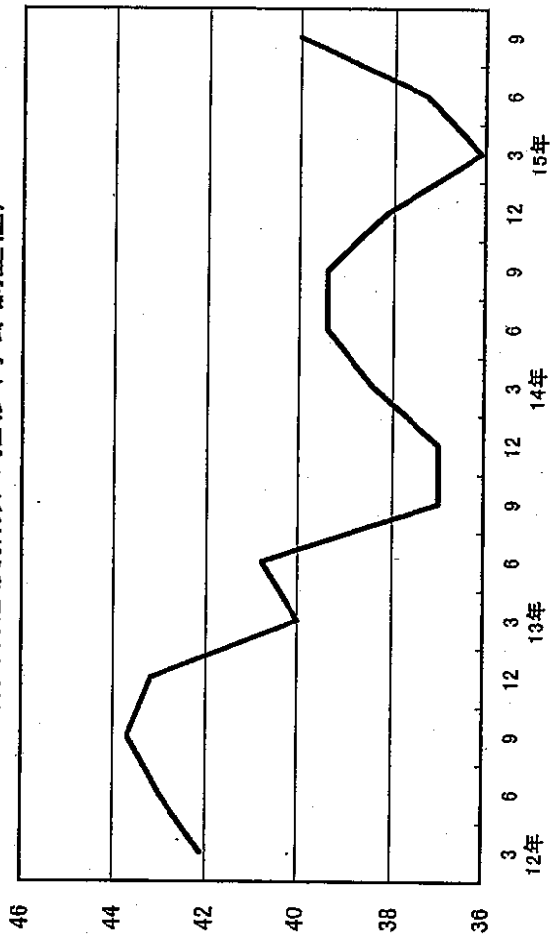
消費総合指数の推移



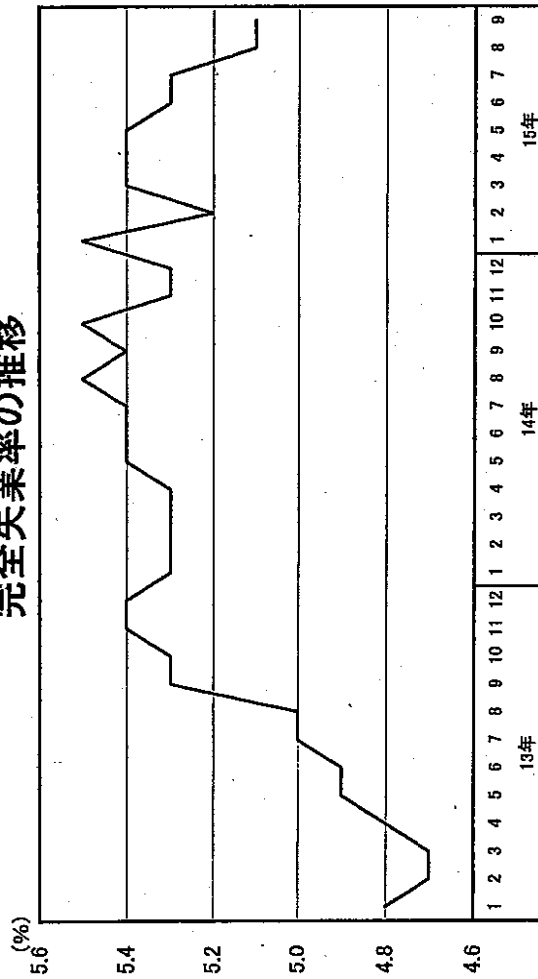
鉱工業生産の推移



消費者態度指数の推移(季節調整値)

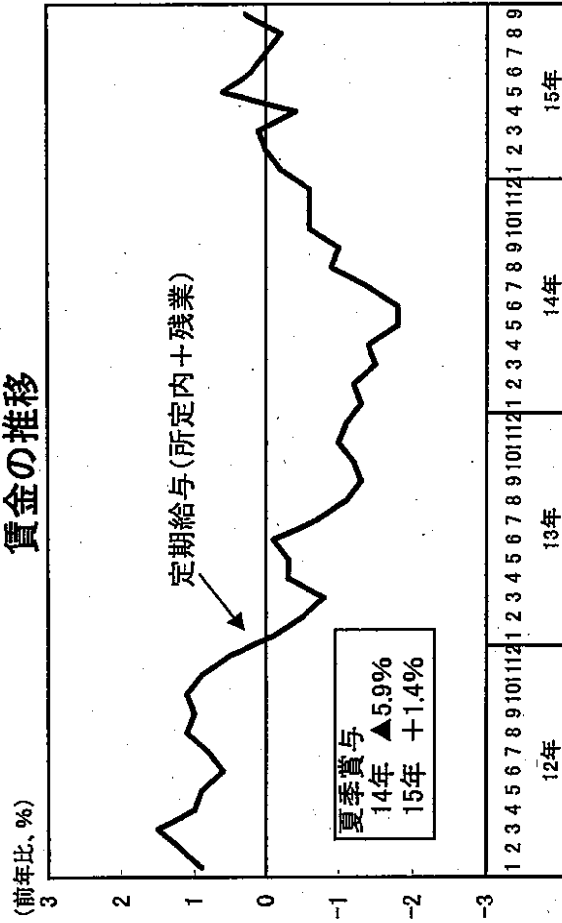


完全失業率の推移



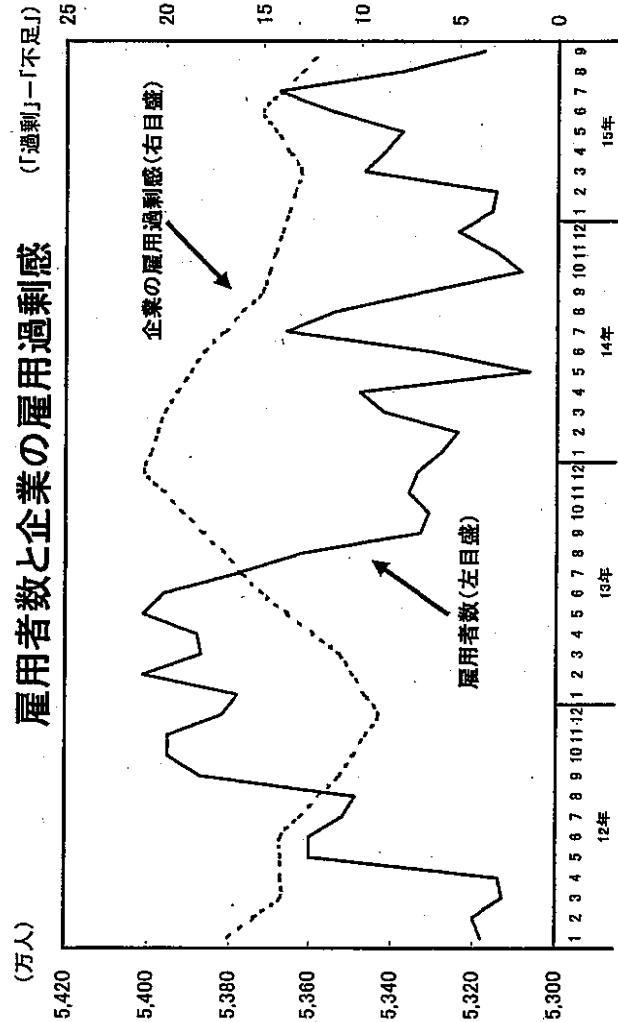
*「労働力調査」(総務省)による。なお、季節調整値である。

賃金の推移



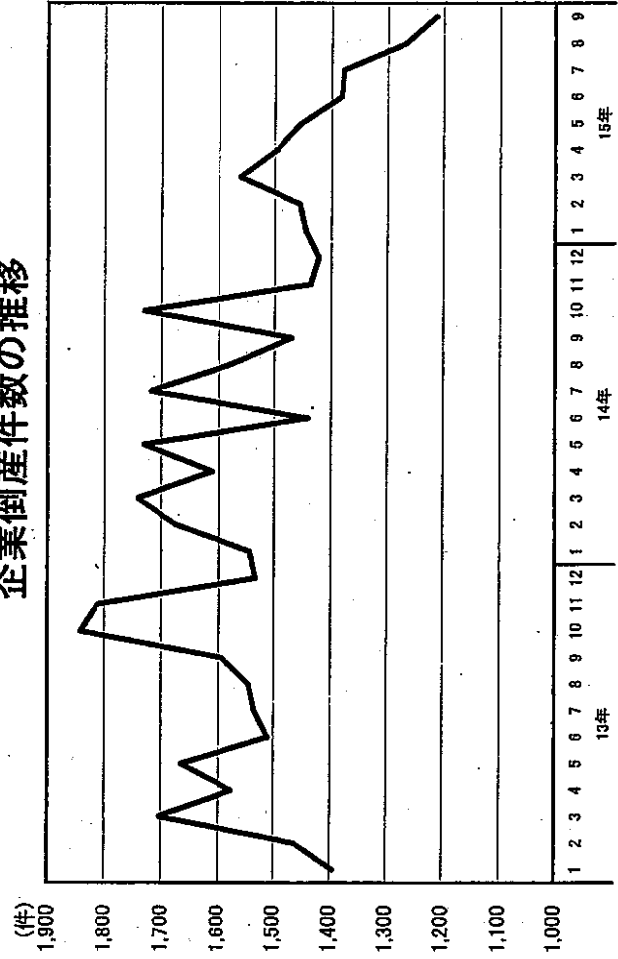
*「毎月勤労統計調査」(厚生労働省)による。

雇用者数と企業の雇用過剰感



*「労働力調査」(総務省)、「全国企業短期経済観測調査」(日本銀行)による。なお、季節調整値である。

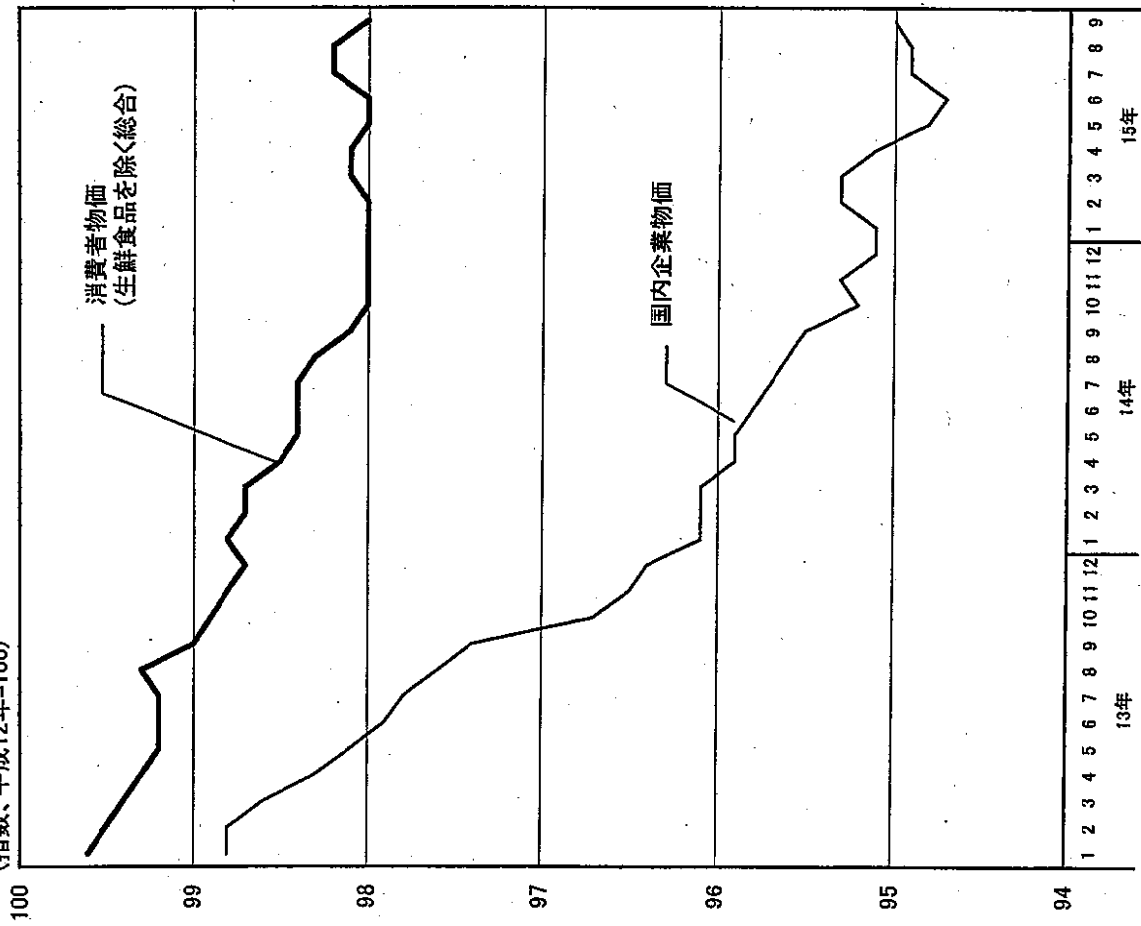
企業倒産件数の推移



*東京商工リサーチ資料による。

物価の推移

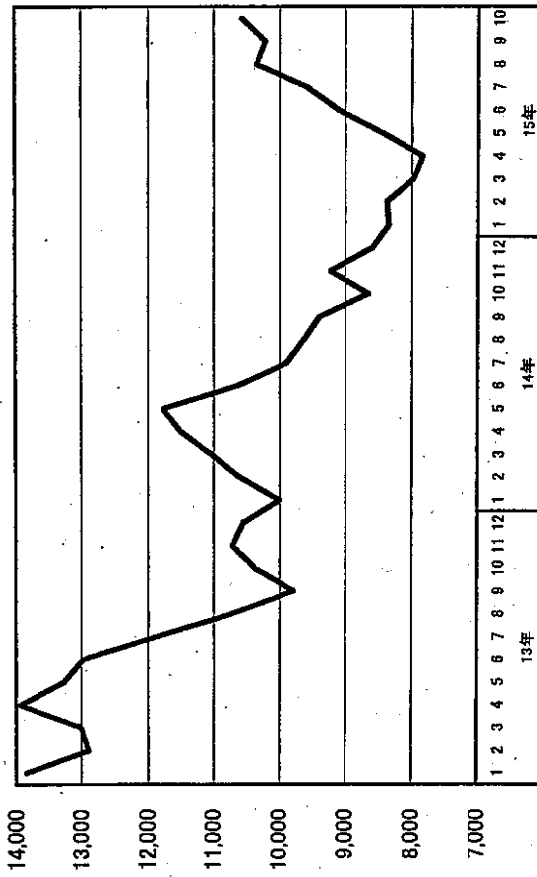
(指数、平成12年=100)



*1「企業物価指数」(日本銀行)、「消費者物価指数」(総務省)により作成。
2消費者物価指数は、全国・季節調整指数である。

株価の推移

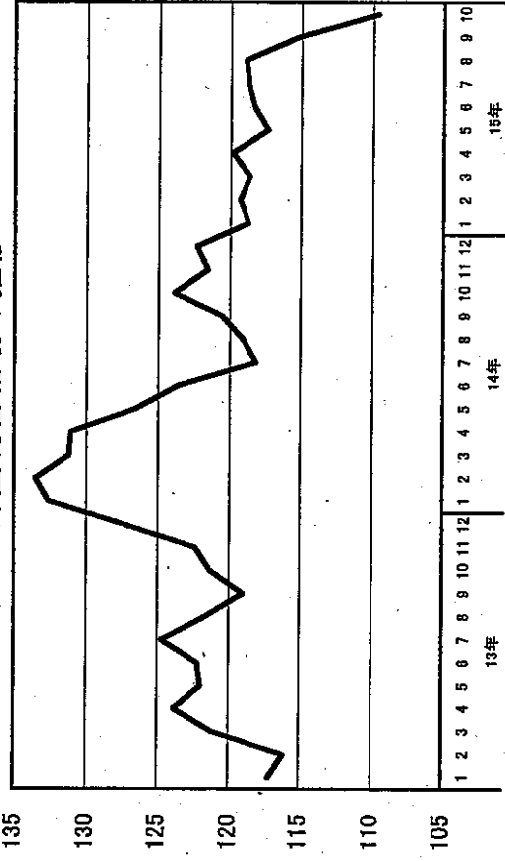
(円)



*日経平均株価の各月末の株価である。

外国為替相場の推移

(円/ドル)



*「金融経済統計月報」(日本銀行)による。なお、インターバンク市場における月平均値である。